

# 第12号 「PMFを応援する会」会報 協奏

2015年2月23日

## 第26回PMFに向けて

PMFを応援する会 会長代行 鈴木 敏明

音楽とPMFを愛する皆様、健やかに新しい年を迎えられたことと存じます。  
本年もPMFを応援する会に変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当会の2014年を顧みますと7月に会長 竹津宜男氏が急逝され、残された私たちは  
氏の大きかった存在を日増しに噛みしめることとなりました。

その間、PMF開催期間中の『カフェサロン』 晩秋の『ニドムツアー』と重要な  
行事を催すことができました。今年度、皆様からお預かりしている寄附金も景気の  
影響を大きく受けることなく推移しそうな状況であるべく取り組んでおります。

「協奏」の紙面をお借りして、心より感謝申し上げます。

2015年は第26回のPMFとなります。昨年までPMFを力強く支えてきた企業が大きく入れ替わりま  
す。当会におきましても、これからがますます大事な時期であると強く意識しております。

そこで各界の有識者の方々に、PMFに抱いている熱い思いを語っていただき、市民力を糧とすること  
を模索したく、フェローにご就任いただきました。

『第1回フェローミーティング』を1月20日(火)に開催し、その要旨を本号に掲載いたしました。ご意見  
等いただければ幸いです。

今後も種々の催しを通じて、音楽とPMFを愛する皆様と市民力の向上に微力ながら一丸となって取り  
組んでいく所存でございます。



### PMFを応援する会フェローと 第1回フェローミーティング(要旨)

1月20日(火)

札幌Lプラザ 4階研修室

出席 フェロー 7名 応援する会役員 6名



### フェローの役割とミーティング開催趣旨

- ・PMFは25周年を迎え、巣立った多くの演奏家は世界各地の第一線で活躍している。
- ・同時に、開催地北海道における音楽文化の向上に大きな役割を果たし、その成果は計り知れないものがある。
- ・世界が認める教育音楽祭PMFをさらに発展させるためには、一層地域に根ざし、より広範な人々に支持される活動が必要である。
- ・PMF啓発活動推進の一翼を担う、フェローの皆さまの忌憚のないご意見をいただくことにより、フェローの充実とともに当会が実施する諸活動が更に広がり、発展させることができるよう、開催のご案内をさせていただいた。

\*当会HP「PMFを応援する会」会則にフェロー細則を  
掲示しています、ご参照ください。

## ♪ Fellow Meeting

新年早々のご案内にもかかわらず、悪天候の中、13名の関係者にご参集いただきました。

初代竹津会長の奥様にも参加していただき、故人のPMFの想いやエピソードなどもお聞きすることができました。



### ○開催趣旨と活動説明（鈴木会長代行）

- ・25周年を迎えたPMFのさらなる発展と、より一層地域に根差し、より広範な人々に支持されるために、綿密な活動が必要と考えている。
- ・当会が実施する諸活動をさらに広め発展させるために忌憚のないご意見をいただきたい。

### ○「PMFを応援する会」の結成経緯と活動報告（三坂次長より）

- ・2009年、初代会長 竹津宜男氏の提唱により、「PMFと市民の交流を目指し、募金活動などを通じPMFを支援する事」を理念に結成、同年8月設立委員会スタート。
- ・今年度の活動内容、寄附の状況の概要説明。
- ・今後、会で実施している事業を一層充実させたい。

### ○意見交換と今後の活動に向けて○

#### 寄附と市民の意識

- \* 海外生活の経験からみると、日本には寄附による文化的行事などへの参加意識が乏しい。
- \* 大口スポンサーが辞退していく中で、今後、資金面での支えはどうか厳しい。
- \* もっと草の根の寄附行為に工夫が必要。
- \* インターネットが一般家庭にも普及している現在、これを大いに工夫活用できないか。
- \* 運営資金状況の危機を市民が共有できるよう、発信できないか。
- \* 若者が動き出せる工夫を考えたい。

#### アカデミー生とのつながり

- \* 毎年、約100名のアカデミー生が参加している。25年で2,500名にのぼる。修了生の個の活躍はもちろん、何か大きな「企画」「イベント」などができるのではないか。
- \* 海外に戻っている修了生も、ネットを通じたつながりをもったり、市民や「応援する会」へのメッセージを発信したりするなど双方向に交流する関係をつくれないうか。
- \* ダニエル・マツカワ氏は国際的に活躍する人物。彼に依頼し、世界規模の寄附活動を展開してはどうか。

#### 市民が動き、かかわりをもつために

- \* アカデミー生との交流が様々な理由で禁止され、市民サイドのつながりが希薄になっている。
- \* 国際的な文化交流の一環であるにもかかわらず、行政の関与がなく意欲も感じられない。
- \* 芸術の森が主体となって運営されてきた意味を崩さないようにしたい。
- \* 吹奏楽連盟を動かすのも一つの案。児童・生徒が世界的なレベルの音楽を聴くことも大いに勉強になる。
- \* 佐渡裕氏などがあるうちにシエナウインド・オーケストラを呼ぶのはどうか。
- \* 札幌在住の修了生の役割も大きいのではないか。
- \* 学校関係者、PTA、児童、生徒との交流を絶やさないでほしい。
- \* 30周年の区切りには創成期のインサイドストーリー本の出版を目指してはどうか。

フェローの皆さんは、多様な職業、立場、経験等多彩な方々ですが、いうまでもなくPMFに対する熱い想いがあり、PMFを通じたつながりを大切にしてきた方々です。PMFを世界に誇る札幌の文化芸術資産として継続・発展させるために、様々な視点でご意見・アイデアや想いを語っていただきました。貴重なご意見を活かすべく、今後もフェローミーティングを開催し、共通の理念の下に具体性をもった提案ができるよう努めていきたいと考えています。

## 連載企画 「私とPMF」 (第3回)

国際交流基金ソウル日本文化センター  
PMFを応援する会 フェロー  
武田 康孝

私がPMFと深くおつき合いさせていただいたのは、今から13年前、2002年のことです。時の経つのは早いものです。



札幌の放送局でアナウンサーをしていた私は、その年の春、会社を辞める決断をしました。その数年前から自分の中でぼんやりと考えていた、文化と社会との関係性やより良いあり方について、いったん組織を離れて深く考えてみたいという思いからの決断でした。

退職日は7月末日。最後の仕事は自分で密かに決めました。かねてより一ファンとして足を運んでいたPMF関連の企画です。音楽家という夢を目指して全世界から札幌にやって来る音楽家の卵たちと、彼らを迎える札幌の人々。双方によってもたらされるPMFの熱気を、放送を通じて是非多くの人に伝えたいと思いました。幸い、当時の上司も企画に賛同してくれました。

7月の一か月間、他の仕事や退職手続きと並行して行ったPMFの仕事は全部で4つ。体力的には大変でしたがとても楽しかったです。(期せずして)担当することになった開会式の司会で壇上から感じた、芸術の森野外ステージに集まった4,000人から発せられる祝祭感あふれた雰囲気は、今でも鮮やかに脳裏によみがえります(ゲストアーティストの名前を読み間違ってしまったことも…)。

FM放送の音楽番組では、2週にわたってPMF特集を組みました。過去の演奏録音とともに、当時組織委員会でオペレーティングディレクターをお務めだった竹津宜男さんの洒落で含蓄満載のお話や、市民ボランティア組織「ハーモニー」の活動の様子を詳しく紹介することができました。最後に制作した全国向けのラジオの構成番組では、北海道出身のアカデミー生に密着し、PMFでの一か月を通じて成長していく姿を描きました(主人公のアカデミー生は現在札幌交響楽団のチューバ奏者として活躍中です)。多忙な会期中にもかかわらず快く取材に応じていただいた皆さんには、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。

これらの仕事を通じ、私は、PMFの存在意義は、アカデミー生が音楽を学んだり市民が華やかなコンサートに足を運んだりすることだけにあるのではない、ということに気づきました。PMFに関わる全ての人々——音楽監督、教授陣、事務局、ボランティア、観客、もしかすると直接関心のない一般市民もかもしれません——が、PMFという催事をきっかけとして札幌のどこかで新たに誰かと出会い、小さな出会いが少しずつ大きくなって札幌の文化の新たな核を作っていくのではないかと。その土地に根ざした文化を創っていくということは、こうした一見地味な出会いや交流を地道に繰り返すことからしか生まれないのかもしれないと私は認識したのでした。

私はその後大学院で文化政策を研究し、現在の職に就きました。今は、お隣の国韓国で芸術を通じた国際文化交流の仕事をしています。今年2015年は日韓の国交正常化から50年という節目の年ですが、ご存じの通り、両国間はここ数年政治的にぎくしゃくした関係が続いています。しかしこのような状況であるからこそ、PMFを通じて私が認識した、人と人とが直接出会って交流し、その中から新たな文化やものの考え方を創り出すことの必要性を感じます。



PMFとのご縁はその後も細々とですが続いています。大学院受験時に執筆した小論文へご協力いただいたのをはじめ、2006年に札幌で開かれた全国音楽ボランティア札幌フォーラムや、PMFのボランティアについて執筆した拙稿の出版の際も関係者の皆さんに大変お世話になりました。これからもこのご縁を大切にしていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

最後に、昨年この世を去られた竹津宜男さんのご冥福を心からお祈りするとともに、今後のPMFと大好きな故郷・札幌のさらなる発展を願っています。



## ニドムツアー2014

- ・いつもは10月に開催するニドムツアーですが、今年は木枯らしが吹き始める11月6日に行いました。
- ・PMFの聖地、苫小牧のホテル・ニドムへバス2台仕立てで行きました。
- ・参加者60名は石川貢副社長の案内でバーンスタインお気に入りの散策路を歩いたり当時の話を聞いたり、ニドムの森は優しく迎えてくれました。
- ・ランチの後はバーンスタインも滞在したシルバーパインのログハウスに移動しミニコンサート。
- ・PMFにゆかりのある柴田千賀子さん櫻井匡さんの演奏とトークに贅沢な時間を過ごしました。
- ・バーンスタインのサインが残るピアノ、ベーゼンドルファーは魅惑的な音色を響かせてくれました。



中山 真梨子(ピアノ伴奏)、 櫻井 匡(トランペット)



バーンスタインのサイン



柴田 千賀子(ピアノ)

### なぜ、ニドムを“聖地”というの？

ホテル・ニドムは1990年、第1回PMF開催の時バーンスタインが静寂と安静を求めて滞在したホテル。病身のバーンスタインがニドムの森で体調を回復し当初の予定をこなすことができたという…詳しくはHP バーンスタインの宿 ①、②、③をご覧ください。

<http://pmf-support.main.jp/rensai-3.html>

<http://pmf-support.main.jp/rensai-4.html>

<http://pmf-support.main.jp/rensai-5.html>

### バーンスタインの思い出

PMFを応援する会の皆様には、日頃から大変お世話になっております。

又、四年に渡りニドムツアーを企画していただき、私共も年に一度皆様と共にバーンスタインに思いを寄せ、心豊かなひと時を過ごさせていただいております。

さて、体調が優れないバーンスタインが、ニドムに滞在し奇跡的な回復を遂げて第1回PMFを大成功に導き云々といういきさつは、もう周知のことと思われるので、当時のニドムでのご様子的一端をお話させていただきます。

私は、残念ながら直接お会いしておりませんので、彼をお迎えし色々に対応をさせていただきました弊社の社長(私の義父です)に思い出を語ってもらいました…

…和食レストラン「ときさた」でご接待させていただいた時のこと。彼は、真っ白いスーツに真っ白いストール姿で現れ、何て派手でおしゃれなんだろうと驚いたと同時に、その深い心意気を大変光栄に感じました。又、和室では、日本文化にとっても興味をもたれ、

株式会社 ザニドム 役員室長 石川 邦恵

彼の感性にグッと響く何かがあったのでしょうか、床の間のヒノキの柱や青畳に顔をこすり付けて匂いを嗅ぎ、「これぞ日本だ!」と。堪能の仕方のスケールが正に世界規模!!お食事の間、お気に入りのバルコニーをよく飲み、よく語り、そして宴の後はダンスに興じていらっしゃいました。

ニドムをこよなく愛し、いよいよ東京に向けての出発の時、行きたくない、行きたくないと何度もおっしゃっていたのが、一番心に残っています…

本当に不思議なご縁を感じずにはられません。バーンスタインが愛した小鳥のさえずり、川のせせらぎ、風のそよぎ、澄み渡る空気、どこまでも深い森、そして“木の宝石”とうたわれているシルバーパイン等々、どうぞ皆様共有しにいらして下さいませ。

最後に、バーンスタインがニドムを去る時に残した言葉を皆様に贈ります。

「森と湖に囲まれたニドムの館は、平和と自由の象徴です。心の安らぎと憩を求める人が多く訪れることを信じます。」

**参加された方、3名の声をお届けします。  
来年は皆さまも一緒に！**

PMF 苦小牧ボランティア友の会  
PMFを応援する会 フェロー 高橋 徹

余市郡 赤井川村 安河内 真樹

今回、レナード・バーンスタインを偲ぶ「ニドムツアー」に、私たち「PMF 苦小牧ボランティア友の会」の5人が初めて参加させていただきました。

私たち苦小牧市民にはなじみの深い「ホテル・ニドム」ですが、改めて皆様と一緒に、バーンスタインが宿泊したコテージやサイン入りのピアノ、滞在時の写真や自筆の「ニドムを讃える歌」の楽譜などを見て、感慨を新たにしました。そして、バーンスタイン受け入れに尽力された多くの皆様方のご苦勞が、今のPMFを創り上げているのだと強く感じました。

PMF 2014 苦小牧公演で演奏されたシューマンの「交響曲第2番」は、第1回目のPMFでバーンスタインが実際に指揮をした曲です。演奏を聴いて苦小牧の地とPMFがとても深い関係にあることを再認識しました。

私たちは、これからも苦小牧公演を通して、バーンスタインの想いとPMFの教育音楽祭としての意義を、苦小牧市民に知ってもらう努力を続けたいと思っています。



2014年11月6日、晩秋のニドム。

薪の燃える匂い、パチパチという音、ログハウスの匂い。すべてが11年前と何も変わらない佇まいで私を迎えてくれました。

11年前の私はウエディングドレスを着て緊張してこの匂いや音を聞いていましたが、11年後の私は、敬愛してやまない柴田千賀子先生のピアノを聴くためにバーンスタインの館に座っていました。

ピアノを弾くことが苦しくなっていた私に、もう一度ピアノを弾く喜びを教えてくれた柴田先生との出会いは3年前。柴田先生が作り出す音は、匂いがします。そして景色が見えます。そんな先生がバーンスタインの館で響かせた音は、私に、ニドムとバーンスタインとPMFと

の結びつきを見せてくれました。

音楽という大きな媒体がすべてを結び、そしてそこに関わる全ての人たちの人生を結びました。

ニドムは不思議な場所ですね。縁を結ぶ場所。

このツアーに参加して、また私も新しい出会いをいただきました。

音楽を学んでいる学生が、自分の目指す音に巡り合えますように。

私も影ながらPMFを応援していこう！



**ニドムツアー取材して**

苦小牧民報社 編集局文化・生活情報部 主任 山田 香織

思わぬ原稿の依頼を受け、とっても恐縮している。2014年11月6日に開催された「バーンスタインニドムツアー」。バーンスタインとニドムの関係は過去に何かで読み、知っていたとはいえ、知識は「素人」と変わりない。

そんな私がツアー取材し、最も感動したのは「ここはPMFの聖地なんだよ」という事務局長の須田俊彦さんの言葉。「灯台もと暗し」と言う失礼だろうか。

私は苦小牧市出身。恥ずかしながら、我が街の誇りを今回の取材を通して教えていただいた。苦小牧の豊かな自然が、巨匠バーンスタインに癒やしを与え、PMFの開催を支えたということは、月並みだけど「すごい」。

企画にも感動した。バーンスタインの使ったピアノでコンサートをするなんて、なんて粋な演出だろう。バーンスタインの散歩した道を歩き、巨匠と同じ空気を体で感じる。これも、なんて粋な演出だろう。今後も地元紙の立場から、この素晴らしい活動を、開催ごとに取材し、取り上げていければと思う。



苦小牧民報は苦小牧とその周辺で「民報さん」と親しまれている地元紙。地域の問題を拾い上げ人気の高い媒体。11月10日版にはニドムツアー記事を掲載いただいた。これからも記者の視点を通してアドバイスも宜しくお願いします！

# PMFの新たな歴史の幕開け

～PMF 2015ダイジェスト～

(公財)PMF組織委員会

広報・渉外担当課長 佐々木 克明



## 2014を振りかえる

PMFが札幌の地に創設されてから四半世紀。25回目の記念すべき開催となったPMF2014が閉幕してから早や6か月が過ぎました。昨年は、首席指揮者に予定していた巨匠ロリン・マゼールの悲報に接するという激動の会期となりましたが、日本を代表するマエストロ佐渡裕が13年振りにPMFオーケストラを振るというPMFファンにとって大変喜ばしい出来事もあり、延べ4万4千人を超える来場者をお迎えして成功裡に終えることができました。これもPMFを応援する会の皆さまのご協力のおかげと心から感謝を申し上げます。

## ゲルギエフふたび

さて、昨年多数のメディアにも取り上げられましたが、PMF2015から3シーズンに亘って、21世紀のクラシック音楽シーンを代表する世界的指揮者、ワレリー・ゲルギエフが、PMF芸術監督に就任します。マリインスキー劇場芸術総監督やロンドン交響楽団首席指揮者などを務め、「世界一多忙な指揮者」の異名をとるマエストロが9年振りにPMFの指揮台に戻ってきます。

## プログラム紹介 & ETC.

ゲルギエフ、PMF芸術監督としての最初のシーズンとなるPMF2015では会期後半のPMF GALAコンサート(8/1)とピクニックコンサート(8/2)、そして横浜、東京の国内ツアー(それぞれ8/3、8/4)に参加、会期後半からフィナーレまで、PMFの若きオーケストラと共に、ベートーベン「ピアノ協奏曲第5番『皇帝』」とショスタコーヴィチ「交響曲第10番」に挑みます。世界的シェフの手で、若きPMFオーケストラがどのようなハーモニーを響かせるのかその手腕に期待が高まります。また、ソリストには、世界で最も権威あるコンクールの一つとも言われるチャイコフスキー国際音楽コンクール、ピアノ部門の今年の入賞者が参加し、ゲルギエフ、PMFオーケストラと共演します。クラシック音楽界の新しいスターが誕生する瞬間に立ち会うことになるかもしれません。どうぞお見逃しなく！

会期前半を牽引するのは、前チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団芸術監督のデイヴィッド・ジンマン。アメリカのアスペン音楽祭で音楽監督を務め、優れた指導力に定評のあるマエストロが、メンデルスゾーン「『真夏の夜の夢』組曲」、マーラー「さすらう若人の歌」、ドヴォルザーク「交響曲第7番」(プログラムA 7/18、7/19)、そしてモーツァルト「交響曲第34番」、ブルックナー「交響曲第4番『ロマンティック』」(プログラムB 7/25、7/26)の多彩なプログラムをPMFオーケストラと共にお届けします。PMF初参加となる実力派のマエストロが、若きオーケストラの音色をどのように導いていくのかに期待が高まります。

さらに、今年のPMFアカデミーは、オーケストラアカデミー(76人)に加え、ヴォーカルアカデミー(4人)とコンダクティングアカデミー(3人)を設置します。指導には、イタリアの名ソプラノ、ガブリエラ・トゥッティ(ヴォーカル)とデイヴィッド・ジンマン(コンダクティング)があたり、その成果を会期中の演奏会で披露します。総合的な教育音楽祭として、教育体制を充実させたPMFの新たな魅力にぜひご注目ください。

また、毎年大好評のPMF教授陣によるコンサートを今年も開催。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団やベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーによる世界最高峰の響きをたっぷりとお楽しみいただきます。

## 新たな歴史の幕開け

PMFは、今年、創設者レナード・バーンスタインの想いを後世に伝えるための新しい四半世紀の歴史の幕を開けます。この重要な年にふさわしい多彩で質の高い演奏会を多数ご用意いたします。どうぞ思う存分PMF2015をお楽しみいただきたく思います。

※敬称略。プログラム内容等は変更になる場合がございます。ご了承ください。

### 発行 「PMFを応援する会」

〒005-0854

札幌市南区常磐4条2丁目17-13

「カフェ・ディ・レニー」内

FAX: 011-827-5181

お問い合わせ 080-6064-7811

<http://pmf-support.main.jp/>

印刷協力 株式会社マルシン

### 〈編集後記〉

PMF2015はどんな展開になるのか、春待つ心と同じような思いが心の中に湧いてきます。

この夏、またいつものように、いや、いつもより熱く文化の香りが街中に漂うことを心から願います。願わくは、世界中から平和を願う人々が集うことを祈ります。

音楽祭を通じて異なる文化や価値観を柔らかい心で受け入れることがバーンスタインの願った世界平和への道につながっているのだとしみじみ思うこの頃です。(M)